

2020年4月29日(水・祝)

在校生の皆さんへ

多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校

校長 石飛 一吉

朝礼に代えて；「ほめる言葉」より大切なこと

キーワード：判断力 創造力 感受性

20世紀までの日本の教育では、長い間、「物事には答えが必ずある」という言葉に代表されるよう、正解主義が浸透してきました。高度経済成長期のように、画一的な生産能力が問われる時代には、それで良かったわけですし、大いなる成果を上げてきました。しかし、ICTに代表されるような新たな産業や技術開発の時代に突入した今、それだけでは通用しない時代を迎えるようになってきました。

それを物語る一例が、「世界の企業時価総額ランキング(World Stock Market Capitalization Ranking)」です。バブル末期の1989(平成元年)、世界トップ企業30の中には、NTTを筆頭に日本の企業が29社も入っていました。いわば「日本の時代」だったわけです。しかし、平成の終わる2019年のトップ30には、日本企業の名は一つもありません。トヨタ自動車が前年の41位から5つランクを上げて、かろうじて36位に入っているに過ぎないのです。また世界の総GDPに占める日本GDPの割合も、1988年の18%から2019年の6%までに下がっています。その意味では、もはや日本は先進国とは言えないのかも知れません。

ただ、どんな時代になっても、子供に対する親の願いは「少なくとも人並みに」「贅沢を言えるなら突出した人間になってほしい」ということにあります。人並み外れた成果を上げる人間には、「子供の頃に、特徴的な遊びをしていた」という共通点があります。子供の頃に、徹底的に遊んだ経験があるということ。しかも、その遊び方には特徴があります。それは、ただ与えられたものを「処理的に遊ぶ」のではなく、自ら遊びを生み出すような「編集的な遊び方」をしていたということです。

遊ぶ子供に必要な力として、まず「判断力」と「創造力」が挙げられます。「判断力」がなければ、知識を持っていたとしても、それを正しく使うことができません。また、「他の誰もやっていないことをやりたい」「つくりたい」「描きたい」といった願望は、いつの時代も私たちの中にあります。いわば「創造力」は、人間が人間らしくあるための力とも言えるでしょう。

さらに、それら2つの力に先立つものとして必要な力が「感受性」です。五感を通して感じ取る力がなければ、正しい判断もできませんし、新しいものを生み出すこともできません。つまり、「判断力」「創造力」、加えてそれに先立つ「感受性」、この3つが最も大切な力だと言えるでしょう。

ところで、中学・高校生になった皆さんは、いま思春期の真っ只中にいます。この時期は、世の中を批判的にみる力が育つ年代で、正しく成長した人は客観性や冷静さが磨かれます。それゆえ、大したことをやってもいないのにほめられたり、持ち上げられたりすることに懐疑的になる時期でもあります。世の中では「ほめて伸ばす」という言葉だけが一人歩きしていますが、その証拠となるものがが必要です。「ほめて喜ぶ」のは、まだ幼さの残りと言えるでしょう。

もちろん人によって成長の度合いは違いますから一概には言えませんが、「正解のない時代」を生き抜く皆さんには、「判断力」「創造力」「感受性」を養うことが必要です。そのためには、頭で考えるだけでなく、本校の教育の2番目の柱である「本物に触れる体験、それに基づいて本質に迫る」具体的な実行力を磨いてください。大切なことは「ほめる言葉」ではなく、「知りたいと思うこと」「学ぶ喜び」を味わい、突き詰めることが大切なのです。それを自分のためだけに使うだけでなく、周りの人と分かち合うことで、明るい近未来を切り拓いて行きましょう。皆さんのこれからの大いに期待しています。

もう少し不自由をお掛けしますが、工夫して自宅学習期間を楽しく有意義にして行きましょう。元気な皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。